

第5回鳥取県ふうせんバレーボール大会・パラレルルール 競技上・審判上の確認事項

◎コート:バドミントンの外側ライン。サービス(アタック)ライン=1.98mから2.5mに変更

◎メンバー構成:ハンディープレイヤー=3~5名。

アドバンテージプレイヤー=1~3名 合計6名とする。

◎接触回数:全員(6名)が触れ、10打以内に相手コートに返球する。

◎ボールのアウト・イン:接地点がライン上であればインとする。

ネット上を通過して返球されればインとする。

コート外の床、人、物にボールがふれた場合はアウトとする。

◎ゲーム進行:コートキャプテンのジャンケンでサーブ権を決めておく。

両チーム主審側からゼッケン順でサービスラインに沿って整列する。

原則として1・3・5番をハンディープレイヤーとする。

主審のホイッスルで挨拶し、ゲームに入る。

(ゲームの進行は主審が行う、プレイヤー等の判断でプレーを止めない。)

◎サーブ:2本以内にネットに触れずに相手コートに打ち込む。

車椅子使用者は、サービスラインより前でサーブを打ってもよい。

また、サーブトス・サーブ後1打のアシストを受けることが出来る。

互いのチームが、得点に関係なく順番にサーブを打つ。

◎レシーブ・パス・返球:

全員が接触し、10回以内であれば、同一競技者は2回までプレーすることが出来る。(審判は全員が触れたかを確認する。)

・同一競技者が連続して触れることは出来ない。

・一連の動作中でのダブルタッチは、主審の判断によりOKとする。

・ラリー中に車椅子等にボールが触れた場合はカウントしない。

◎アタック:ゼッケン番号1・3・5の選手しかできず、立位者は原則としてアタックライン後方から打つ。ジャンプしてのアタックできない。

◎反則について

・全員が触れる前に相手コートに返した場合・・・ナットオール

・10打以内に相手コートに返球できない場合・・・オーバータイム

・一人の競技者が連続してボールに触れた場合・・・ドリブル

・ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合・・・ホールディング

・サーブやアタックをジャンプして行った場合・・・ジャンプアタック

・ボールを操作するためにネットに触れた場合・・・タッチネット

・相手コート上でボールに触れた場合・・・オーバーネット

・サーバーやアタッカーがサービスライン=アタックラインを踏んだり、踏み越したりしてプレーをした場合・・・オーバーライン

◎ゲーム終了:10分の試合時間又は15得点先取のラリーポイント制。

サーブラインに整列し、向かい合う選手と握手をしゲーム終了。

補足説明

*複数競技者が同時に触れた場合・・・それぞれのカウントとするが、次のボールは誰が触れても良い。

*ドリブル・・・2度打ち、明らかに両手ばらばら、身体に当たってから打つ。

*フォールディング・・・手に乗せ運ぶ、つかむ、ネット・身体で挟み込む。

*アタック・・・相手コートに打ち込む行為を全てアタック。 ●アタックの反則・・・アドバンテージプレイヤーがネットより高い位置から、ネット通過時水平より鋭角にアタックした場合。